

事業報告書

2023年度（令和5年度）

2023年（令和5年）4月 1日から

2024年（令和6年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリズ学園

2023年度事業報告書

ヴォーリズ学園は、2022年に創立100周年を終え、2023年度、新たな世紀へのスタートを切りました。私たちは、予想を超えて進む少子化・人口減、コロナ禍の影響、ウクライナやガザでの戦争、危機的な経済状況等、極めて厳しい「逆風」に直面しています。一方、2024年は「ヴォーリズ没後60年」、2025年は「ヴォーリズ来日120年」にあたり、創立者を顕彰する様々な事業が県や市、地元の皆さん方から企画されるなど「追い風」も強くなっています。その追い風にしっかり帆を張り、次の100年への歩みを進めたいと思います。

以下、学園の未来を切り開くべく、策定した中期展望「ヴォーリズみらい構想」の到達点を中心に報告します。

(1) 「いのちを大切にする教育」

この間、クラブ活動等で「いのちを大切にする教育」を標榜する我が学園としては、看過できない問題が続きました。再度、全教職員が、「いのちを大切にする教育」を学園の教育・保育の根本として再確認しなければなりません。すべての生徒が生き生きと輝いて学ぶことが、本学園の最優先課題です。

(2) 時代が求める教育改革

従来型の知識偏重の教育から、時代は「探求的な学び」「リベラルアーツ教育」など自ら考え仲間と協働できる力を育む教育へと大きな改革を求めています。学園としても「教育改革推進委員会」を立ち上げ、他校視察等の取り組みを精力的に行いました。また「グローバル人材の育成」の取り組みとして、米国マーセッドカレッジとの協定が調印されたことは特筆されます。

(3) 「ヴォーリズみらい構想」の推進

①市井校地整備

新恵愛館（ラーニングコモンズ）についても龍谷大学施設の見学等を実施し検討を深めました。そのコンセプトは、「イノベーションに資する施設」「キャンパスライフ充実につながる共有施設」「中高、各校舎をつなぐ施設」です。学園の新たな教育のステージとなる最優先施設となります。併せて西館リニューアル、ハイド記念館・教育会館周辺整備についての議論を加速します。

②ハイド記念館・教育会館等保存活用

地域の皆様や県立大学との連携を大切にしながら、「ヴォーリズ記念館・ハイド記念館・教育会館保存活用推進協議会」として、「茗荷恭介作品展」「ヴォーリズ建築図面展」等に取り組み、土日・祝日も含めた一般公開をスタートした昨年10月からの入館者は1,651名（5/21現在、観光物産協会ツアー省く）となりました。いよいよ県や市、業者とも相談しながら具体的な補強工事や活用事業の検討、独自の寄付活動（ふるさと納税等）に取り組みたいと思います。

③エデュケア事業

安土保育園建て替えを完了し、金田東保育園認定こども園化・建て替え事業がスタートしました。

④浅小井校地等の活用→「ヴォーリズみらいビレッジ」

ヴォーリズみらい構想事業部を中心に活用を検討し、ヴォーリズみらいビレッジ運営連絡会議に諮りながら事業を進めました。有限会社ウエストやFCヴォーリズ、滋賀YMCAを中心に利用・活用は少しずつ活性化しています。一方、その運営体制については課題として残っています。

⑤その他

立命館大学の学生団体「CLOWN」によって、「ヴォーリズの森」にツリーハウスが建設されました。カヌー等も含めて、今後の活用が課題です。また3校地と駅を結ぶアクセスの改善についてもいくつかの提案がありましたが、未だ具体的には結論を得られていません。スクールバス事業の拡充と併せて今後の課題となります。

(4) 本部組織の改革

厳しい経営環境のなか、魅力的な学園づくりをすすめるためには、「学園機能の強化」が不可欠と考え、本部改革に取り組みました。従来の「法人本部」と「エデュケア本部」を合体し、それを職能により、「本部事務室」と「労務経理室」に分割しました。今後は、学園の中核として、エネルギーを最大限、発揮できる組織を目指します。

理事長 藤澤俊樹

I. 学校法人の概要

本法人は「イエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造力に富む人、知性豊かな国際人を育成すること」を目的としております。

2023年度における本法人の概要は、以下のとおりです。

1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日制課程 普通科・国際コミュニケーション科
近江兄弟社中学校
近江兄弟社ひかり園
もりの風こども園
そらの鳥こども園
金田東保育園（本園・分園）
安土ののはな保育園
ふるたか虹のはし保育園
安土こどもの家（指定管理）

2. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。
商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCAを組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡 YMCA 会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、商業学校卒業。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道 YMCA 設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1923年 米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野。42年閉鎖。
吉田悦蔵著『近江の兄弟ヴォーリズ等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与される。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。战中、女子青年学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部。
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健 衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林こどもの家」と称した。翌年、慈恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。
- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1941年 ヴォーリズ帰化、一柳米来留と名のる。太平洋戦争始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。
清友園幼稚園、大林こどもの家、近江兄弟社女学校などをまとめて近江兄弟社学園と称し、檜山嘉蔵が学園長となる。
戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念

なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。
戦後帰幡。

- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。
- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。
- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。
「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表したのが、反対運動で中止。
希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、理事長、尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原侑、池田健夫。学園長、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリス記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社社会整理、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制、92年から4学級制化。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三和英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書館棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリス記念グラウンド）。
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1996年 シャロン館建設（現高校エクステンションセンター）
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。「21世紀グラウンドデザイン」策定、17年終了。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。近江兄弟社こどもセンター設立。
- 2004年 エンジェル保育園開園。
- 2007年 星のひかり保育園開園。学園本館建設、5階にヴォーリス平和礼拝堂設置。第1回「いのちと平和の集い」（以後、毎年開催）。学園宗教センター開設。
- 2008年 金田東保育所運営開始。
- 2009年 「ヴォーリス展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 安土保育園運営開始。安土こどもの家指定管理者として運営開始。新希望館建設、ICC発足、翌年、高校国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 守山市にもりの風こども園開園。浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2013年 近江兄弟社ひかり園運営開始。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリス没後50年記念行事「ヴォーリスメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。
「ヴォーリス建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリス学園」に変更（以後、理事長・池田健夫、藤澤俊樹。学園長・道城献一、池田健夫）。
- 2016年 弓道場移転。第10回「いのちと平和の集い」（以後、隔年開催）。18年度近江兄弟社小学校児童募集停止発表（12月）。
- 2017年 東近江市にそらの鳥こども園開園。メインアリーナ竣工。サブアリーナ改修。

- 2018年 「近江兄弟社こどもセンター」を「ヴォーリズ・エデュケアセンター」に変更。
ヴォーリズ・コーチングアカデミー開設。
- 2019年 「第一次フロンティアプロジェクト」から「第二次フロンティアプロジェクト」へヴォーリズみらい構想準備会を立ち上げ、委員会スタート（1月23日）。
高校国際コミュニケーション科定員増（2学級）。守山市にふるたか虹のはし保育園開園。一柳満喜子没50周年記念事業実施（8月～11月）。
学校法人関西学院と近江兄弟社グループが連携協定締結。
- 2020年 「ヴォーリズみらい構想」策定。COVID-19による休校（4～5月）。
- 2021年 浅小井校地グラウンドを人工芝化。宗教センターを「ヴォーリズ・キリスト教平和センター」に改称。
- 2022年 創立100周年を迎え、創立100周年記念式を開催。
- 2023年 近江兄弟社小学校閉校。安土保育園新園舎竣工。名称を「安土ののはな保育園」に改称。

3. 設置する学校等の定員および生徒数の状況（2023年5月1日現在）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,190名	1,160名
中学校	456名	413名
こども園	535名	553名
保育園	484名	511名
学 童	100名	100名
合 計	2,765名	2,737名

4. 役員および教職員の概要等

①役員一覧（2023年5月1日現在）

理 事 長 藤澤俊樹
 常任理事 小野春男 松田 保 安川千穂 池田健一 中島 薫
 田邊理恵子 浅居正信 山崎 直
 理 事 奥 達夫 山村 徹 上野昌志 蔭山孝夫 菅井昌彦 尾賀康裕
 監 事 小西 勉 川森勇次
 評議員 39名

②教職員数（2023年5月1日現在）

法人本部	理事長、学園長、副学園長2、事務長、参与、事務次長2、専任職員7、エデュケアセンター専任職員1、兼任職員8					
	校 長	副 校 長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	73	25	2	12
中学校	1	教頭含2	27	7	0	7
こども園 (3)	園長3	副園長3	81	0	6	61
保育園 (3)	園長3	副園長1	0	0	81	58
学 童 (1)	0	0	0	0	3	8

Ⅱ. 各校園事業報告

1. 高等学校

新型コロナウイルス感染症によりマスク着用などの習慣は日常化しましたが、校内外の教育活動はほぼ正常に戻りました。それに伴い、日常の教育活動に加え、6月の学園祭や11月の海外研修旅行、各種クラブの大会などの様々な行事等において生徒の活躍が見られました。

(1) 学習活動について

日常の学習では、ICTを活用したアクティブラーニングが定着し、大型ディスプレイを用いた資料提示や板書の簡素化が進むとともに、グループワークやロイロノートを用いた課題提出等が行われ、主体的に学ぶ姿勢を育み、仲間と協働して探究する授業実践がなされました。VH(ヴォーリズアワー)は各クラス毎の綿密な打合せのもとに進められ、八幡学や研修旅行事前学習、総合型選抜入試への取り組みを通じた貴重な探究の時間となりました。また英語学習アプリ Monoxer を用いた VCEP の成果が英語検定取得状況や模擬試験の成績向上に現れました。教科型エクステンションプログラムの土曜講座は atama+ を用いた放課後の個別最適化学習への移行を念頭に、高校3年生対象の英語講座のみの実施となりましたが、12月の最終講義まで生徒は熱心に取り組みました。また放課後授業についても熱心に学習に取り組んでいる生徒の姿が見られました。教科外エクステンションプログラムは、インターアクトクラブを中心に少人数での取り組みを行い、徐々に参加人数も増えていますが、教科型・教科外いずれのエクステンションプログラムにおいても参加者の増加が課題です。

(2) 学校生活について

① 生活指導

落ち着いた状況での学校生活が送れていますが、生徒指導の中心が生徒支援・教育相談に移りました。些細な事からのいじめの訴えがあり、いじめ防止対策会議や教育相談会議において情報を共有しつつ、個々のケースについて丁寧な対応に努めました。また生徒指導提要の改定に伴う懲戒規程の見直しを行いました。校則改定については生徒会と協議しましたが、継続的な取り組みが必要です。

生徒異動では、27名(2022年度25名)の転退学者、転籍1名がありました。学年制1年不登校生徒の通信制高校への転学者、および単位制3・4回生長期欠席者の転退学者数が相当数を占めています。

ICTの活用やNHK学園通信講座の更なる利用など、不登校生徒の支援策の検討が課題です。

② 進路指導

進路状況では、四年制大学への進学率が73.9%(2022年度84.9%)、短期大学進学率4.1%(2.3%)、専門学校14.2%(8.7%)、就職0.8%(0.5%)、その他7.0%(3.6%)となり、四年制大学進学志向が高い状況が続いています。指定校・連携校推薦による合格者数とともに、AO入試等の総合型選抜入試での合格が増加しています。また指定校推薦においても大学共通テストなどで学力担保の傾向が見られ、基礎学力の向上に向けた取り組みが求められています。

③ 学校行事

学校行事では、学園祭への保護者参加を可としました。多くの保護者が参加され、生徒の活動の様子を参観していただき好評を得ました。また中庭マルシェ等、コロナ禍での取り組みを継続し、新しいスタイルでの行事の在り方を模索しました。

④ 国際交流

国際交流事業も活発に行われ、年度途中から国際センターを強化して対応しました。11月には高校2年生の海外研修旅行を再開し、ICCはオーストラリア、ASCとHNCは台湾、GLCは韓国への研修を行いました。台湾の交流校5校のうち3校が本校を訪問し相互交流となり、コロナ以前の交流風景が戻りました。またマレーシアや韓国への春季短期留学やアメリカへの夏期研修、姉妹校や私費による中長期留学も行いました。

⑤ 連携教育

高大連携では学部学科セミナーや大学デー(5校)、大学訪問(6校)を実施し、進路に対する意識を高める機会としました。また本校をメイン会場に同志社大学と4校の高校を結んでの高大接続プログラムを実施しました。多様な価値観を持つ高校生がオンラインで繋がり、参加者同士の相互啓発を促進し、大学で学ぶ意味、学問の持つ奥深さと幅広さを体感できる機会となりました。またインターアクトクラブを中心に地域での連携活動にも積極的に参加しました。

⑥ 部活動

ほぼ制限なく日々の活動や大会が行われ、学内外での本校生徒の活躍がありました。多くのクラブが全国大会や近畿大会に出場しました。一方で、部活動指導における指導者の言動によって生徒を傷つける問題がありました。クラブ活動の在り方に関わる問題がありますので、部活動の在り方について検討を進め、全教員が認識を共有し、「部活動基本方針」に基づいた実践と研修に努めます。

(3) 学校運営について

教員間の直接的なコミュニケーション不足の問題解消に向けて、学年制で指導部長制度を学年主任制に変更し、学年団会議等での意思疎通を図りました。高校運営委員会には学年主任も参加し、学年で出された内容が全体に反映できるようにしました。昨年度までのA・G指導部長と学年主任の任務範囲の違いについて混乱した面もありましたので、部長や管理職も含め任務責任の明確化が課題です。教職員会議では、生徒の人権を尊重する教育活動に向けた研修にも取り組みました。

(4) 教育改革の進捗状況について

高校教育改革計画「Future 2025」策定に向けての継続的な取り組みを行いました。2025年度実施に向けての総合的な探究の時間の見直しと探究科の創設、新しい学力観を高める授業改革、職場のDX推進と時程見直しも含めた働き方改革等を柱に、新しい教育改革に向けた準備を進めました。

(5) 募集状況について

オープンキャンパスや学校説明会、また中学校訪問や中学主催の説明会への参加、塾訪問等、積極的な募集活動を展開し、2022年度と比して説明会等への参加者は増加しました。しかし、説明会参加者増加が受験者増加に結びつかず、受験生は併願で約40名の減少となりました。専願で328名(入学定員の84.1%)を確保し、定員確保に努めました。公立高校の2次募集の影響を受け、定員390名に対して383名の入学者数となりました。今後は更なる受験人口の減少や2026年度入試からの公立高校入試制度改革等、本校の定員確保に向けた状況がより不透明になる中、専願率を高める教育改革と募集対策の充実が急務です。

2024年度も引き続き教育活動の充実を図り、更なるリベラルアーツの学びの発展を目指します。皆様のご理解とご支援をお願い致します。

2. 中学校

2023年度は with コロナの生活習慣を踏襲しつつコロナ前の学校生活に戻す方向で運営を進め、様々な行事や活動などほぼ制限なく実施することができました。そのため生徒たちの活動は広がり、今までコロナ禍でできなかった行事等、経験したことの無いことにも取り組みました。迷いながらではありましたが、それぞれの取組においてリーダーとなる生徒がおり、クラス・学年・縦割り班で協力し、新しいものを創り出そうとする姿勢やみんなで楽しもうとする雰囲気を強く感じる年度でした。

(1) 教育改革の推進・学習活動

「英語教育」「ICT教育」「探究学習」を教育の柱として取り組みました。

「英語教育」では、週6時間のカリキュラムで、言語習得の流れを大切にしたラウンドシステムの導入と英会話授業を充実させる体制をとって2年目の年度となりました。英語技能を測る学力テスト「GTEC」の結果から英語力の向上が全体的に見られ、特に **speaking** の成長が顕著に見られました。今後の課題として **writing** の力をさらに強化し英語5技能をより高いレベルでバランス良く身につけられるよう検討を進めます。

「ICT教育」では一人1台のタブレット端末を準備しての体制をとって4年目となります。全ての授業で効果的に活用されており、また行事や諸連絡等、学校生活の様々な場面で活用できました。しかしタブレット端末によるトラブルもあり本校 ICT リテラシーの徹底に向け、生徒たちが ICT 機器を適切に活用できるよう指導、啓発を進めて行くことを確認しました。今後もさらに進化を続ける分野でもあり、指導に当たる教職員が研修・研究を進める体制をさらに整えます。

「探究学習」では各学年での取組を進めて2年目の年度となりました。

1年生の「京都研修」、2年生の「沖縄研修」での事前の取組や研修での経験や学びをもとに2月には、1年生は近江八幡を、2年生は滋賀県をテーマに探究学習を進めました。全教職員が関わり生徒たちの活動の支援に当たりました。昨年度からの積み重ねもありましたが、まだまだ試行錯誤の部分もあり、教員の探究委員会を中心に検討し取り組みました。今後の課題として、次年度は探究学習3年目の取組を迎えることから各学年での探究学習の目標、それぞれの学年での取組のつながりを明確にし中学校3年間での学びの道筋と到達点を確立していきます。

(2) 学校生活

「いのちを大切にできる教育」を教育の中心に据え、生徒一人ひとりに適切な支援ができるよう取り組み、様々なアンケートを実施し生徒たちの状況把握に努めました。全体的には概ね順調な運営ができましたが、個々には課題を持つ生徒も見られます。生徒たちの状況を丁寧に把握し適切な支援ができるよう情報共有を密にし、チームで丁寧に対応できるようさらに意識を持って体制を整えます。

また2022年度より生徒会で取り組んでいる「校則改定」をさらに前進することができました。適宜生徒会役員と意見交換を行うなどし、「自律した学校生活」実現に向け支援しました。本校教育目標である自己統制力の育成にもつながり、さらに支援・指導を進めていきたいと思えます。

(3) 学校運営・募集活動・連携

今年度も引き続き、中学校教育目標と本校教育の三本柱（英語・ICT・探究）をアピールし、保護者だけでなく受験生目線でも学校の様子が伝わるよう、生徒による司会進行、体験発表、学習体験のサポートやポスターセッション等、在校生の姿を可能な限り紹介しました。しかし今年度入学生は入学定員を52名下回り、昨年度入学生より34名減となる100名となり大変厳しい結果となりました。次年度に向けて今年度募集活動の総括をしっかりとし対策を検討していきます。

一方で、今年度の近江兄弟社高等学校への内部進学生は87名（60%）と過去最高となっています。このことから中学校の生徒数確保は中高の教育、学校運営にとって大変重要であると考えられます。厳しい状況であっても、必要とされ、選ばれる学校であるために本校教育理念を再確認し、教育の充実を図り本校の魅力のさらなる発信に努めます。

3. ヴォーリス・エデュケアセンター (Vorles EduCare Center)

○ ヴォーリスメソッド「いのちを大切にす教育」の確立

創立100周年を機に「いのちを大切にす教育」を柱とした『ヴォーリスメソッド』を作成し、メソッドの活用を努めました。保護者会や入園説明会等において、「いのちを大切にす教育」を発信する際に、ヴォーリスメソッドを活用し、園の教育・保育の理解につなげました。また、各園での園内研修、保育の振り返りの場面で、ヴォーリスメソッドと子どもの姿を照らし合わせ、子どもの育ちの捉える視点を再確認し、具体的実践につなげる準備をすすめました。「いのちを大切にす教育」の土台となるキリスト教保育研修や子ども主体の保育につながる研修や実践を重ね、各園の特色を生かした保育を展開することができました。

○ 施設整備事業

昨年度から引き続いた安土のはな保育園の園舎建て替えが完了し、2023年5月より新たな園舎で保育がスタートしました。また、園庭の整備や外構工事、旧園舎取り壊しが終了し、子ども達の安心・安全な園生活の充実を図ることができました。

金田東保育園の認定こども園化及び新園舎建築に向け、建築委員会を定期的に持ち、2024年度の建築計画を着実に推進した年になりました。

近江兄弟社ひかり園では、予定していたLED化は、価格高騰のため、当初の予算との差額が大きく工事を見合わせました。

もりの風こども園のパーゴラが完成し第2期園庭整備が完了しました。

○ 保育の質向上につながる働き方の見直し

勤怠管理システムの本格導入をしました。会議の持ち方の工夫やノンコンタクトタイム(※)の確保等、働きやすい職場環境を整えました。保育士不足の中、採用時期を検討し保育士確保に努めると同時に、人材の定着につながるよう処遇改善や研修の充実を努めました。

※ ノンコンタクトタイム 勤務時間中に保育士らが一時的に子どもから離れ、各種の業務に取り組む時間。その時間の確保により、事務作業に集中したり職員間で情報交換したり、気持ちをリセットし子どもたちと向き合うことができる。

○ 放課後児童クラブ室の運営

安土第1・第2こどもの家(安土学童ひまわりクラブ)では、児童年間平均数99名と多くの児童の受け入れをしました。子どもたちが児童クラブで充実した生活を送ることができるように、子どもたちと支援員および補助員が協力しあい、日々の生活を作り上げました。

Ⅲ. 財務報告（2023年度財務状況概要）

(1) 資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。

①資金収入

(単位千円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒納付金収入	1,151,434	1,176,403	1,191,402	1,162,588	1,153,684
手数料収入	32,921	32,613	32,975	30,947	29,410
寄付金収入	31,839	19,203	21,130	13,815	12,001
補助金収入	1,607,069	1,711,254	1,691,171	2,039,516	1,802,144
資産売却収入	0	0	0	0	0
事業収入	119,056	132,337	138,409	141,577	87,795
受取利息・配当金収入	176	221	256	341	568
雑収入	42,455	50,956	131,538	90,463	142,571
借入金等収入	0	0	60,000	170,000	0
前受金収入	110,180	106,950	100,140	97,450	91,940
その他の収入	478,128	153,126	154,215	236,031	459,350
資金収入調整勘定	△222,374	△254,270	△333,184	△557,854	△360,262
前年度繰越支払資金	850,215	907,831	1,040,720	1,160,051	1,346,565
収入の部合計	4,201,104	4,036,628	4,228,774	4,584,928	4,765,771

②資金支出

(単位千円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費支出	1,995,722	2,063,333	2,103,756	2,099,634	2,085,580
経費支出	664,161	668,279	681,644	688,071	722,227
借入金利息支出	12,582	10,580	10,054	10,188	9,021
借入金返済支出	425,269	120,226	102,496	110,476	105,953
施設関係支出	28,954	17,186	89,344	269,732	261,489
設備関係支出	17,728	25,231	17,499	19,981	89,511
資産運用支出	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
その他の支出	173,777	117,306	88,815	91,772	182,220
資金支出調整勘定	△74,924	△76,236	△74,888	△101,493	△110,055
翌年度繰越支払資金	907,831	1,040,720	1,160,051	1,346,565	1,369,822
支出の部合計	4,201,104	4,036,628	4,228,774	4,584,928	4,765,771

(2) 事業活動収支計算書

会計年度における、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動収入	2,963,175	3,117,877	3,204,482	3,187,139	3,222,789
教育活動支出	2,958,987	3,026,743	3,070,226	3,060,140	3,088,286
教育活動収支差額	4,188	91,134	134,255	126,998	134,502
教育活動外収入	176	221	256	341	568
教育活動外支出	12,582	10,580	10,054	10,188	9,021
教育活動外収支差額	△12,406	△10,359	△9,797	△9,847	△8,452
経常収支差額	△8,218	80,775	124,457	117,151	126,050
特別収支差額	23,248	8,074	△605	245,244	939
基本金組入前当年度収支差額	15,030	88,850	123,852	362,395	126,989
基本金組入額	△505,035	△204,711	△174,418	△338,073	△289,895
当年度収支差額	△490,004	△115,861	△50,565	24,322	△162,905

(3) 貸借対照表

年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態すなわち財政状態を表示するものです。

(単位千円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
資産の部					
固定資産	5,955,698	5,756,170	5,625,289	5,647,000	5,763,662
有形固定資産	5,742,579	5,494,559	5,315,187	5,288,407	5,356,577
特定資産	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000
その他の固定資産	13,118	11,610	10,101	8,593	7,084
流動資産	1,086,164	1,235,433	1,431,163	1,837,429	1,751,254
資産の部合計	7,041,862	6,991,603	7,056,452	7,484,429	7,514,917
負債の部					
固定負債	1,301,054	1,196,293	1,137,929	1,207,298	1,114,214
流動負債	398,438	364,090	363,450	359,662	356,245
負債の部合計	1,699,493	1,560,383	1,501,379	1,566,961	1,470,459
純資産の部					
基本金	8,552,840	8,757,551	8,931,970	9,270,043	9,559,939
繰越収支差額	△3,210,471	△3,326,332	△3,376,897	△3,352,575	△3,515,480
純資産の部合計	5,342,369	5,431,219	5,555,072	5,917,468	6,044,458
負債及び純資産の部合計	7,041,862	6,991,603	7,056,452	7,484,429	7,514,917